

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
YIC京都ビューティ専門学校		平成21年12月2日		村田 忠男		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4100																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人京都中央学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4040																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
商業実務	商業実務専門課程	ブライダル科			平成28年文部科学省 告示第18号	-																							
<b>学科の目的</b> 良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストとして活躍できる人財を育成する(教育理念)。具体的には 1. 自分を磨くとともに、まわりの人たちの心と身体を癒しながら美しく健やかな人を創り出すことに喜びを感じ、そのための正しい知識と高い倫理観を持った人財。 2. 外見の美しさだけでなく、健康、知性、感性、人間性、心、自信、教養、これら全てが、真の美しさを創り出す大切な要素であると考え、美容、エステ、メイク、ネイル、ブライダル等ビューティ分野全般の基本的知識・技術を持つとともに、それぞれの専門分野のプロフェッショナルとして必要な技術・知識を究めた人財。 3. 常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感を持った人財。 4. 人間的な魅力を備え、接客や対人コミュニケーションの場において、「おもてなしの心」で接することのできる人財。 5. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じることでできる人財。 6. 拳式の演出・プランニング、フラワー、メイク、ヘアの知識まで、幅広く活躍できるトータルプロデュース力を備えた人財。 7. 幅広い教養、将来ブライダル業界の指導的立場やリーダーとなりうる人財。																													
認定年月日		平成26年3月31日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	1,800	870	0	1,020	0	0																						
時間																													
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数		兼任教員数		総教員数																					
60人		29人	0人	1人		10人		11人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績:秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																							
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月10日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日			卒業・進級条件		卒業の要件: 必修科目 60単位(1800時間)の履修 ※単位:90分 x 15週の座学(授業)または実習をもって1単位とする。ただし校外実習などこれによりがたい場合は別途決定する ※科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上 学費及び教材費等の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、適宜本人との面談や場合によっては保護者を含めた三者面談を実施。状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。相談・支援は担任だけでなく学生支援室にて相談窓口を設置。相談室では専門のスクールカウンセラーが、学生や保護者の相談に対応しています。			課外活動		■課外活動の種類 学園祭実行委員、オープンキャンパス学生スタッフボランティア他 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) ウェディングサロン、ホテル、美容室等 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談の実施。企業訪問の指導支援、学校主催の企業説明会開催等により、学生が希望する企業への就職を支援する。 ■卒業生数 : 18 人 ■就職希望者数 : 18 人 ■就職者数 : 11 人 ■就職率 : 61 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 61 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ABC協会ブライダルプランナー検定1級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルコーディネイト3級技能士資格</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人JMAメイクアップ技術検定3級試験</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ABC協会ブライダルプランナー検定1級	③	18人	11人	ブライダルコーディネイト3級技能士資格	③	17人	14人	一般社団法人JMAメイクアップ技術検定3級試験	③	17人	17人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
ABC協会ブライダルプランナー検定1級	③	18人	11人																										
ブライダルコーディネイト3級技能士資格	③	17人	14人																										
一般社団法人JMAメイクアップ技術検定3級試験	③	17人	17人																										
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 2.8 % 令和2年度4月1日時点において、在学者36名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者35名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み、クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。hyper-QUアンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS;学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学者または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績数について任意記載 ・前年度の給付実績数: 0名																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																												
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/</a>																												

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

進歩している業界の知識・技術を取り入れ、教育課程を「生きた」ものにするために教育課程編成委員会を組織する。より業界のニーズに沿った人材育成に係わっていただき、PDCAのサイクルを回して、教育の硬直化を避け、就職率・定着率のアップを産・学・官・民協力の下、推進していくことが目的。より実践的、業界事情にあった科目を展開するべく委員それぞれの立場や視点からの率直なご意見をいただきながら、教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

- (1) カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2) 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3) 教科書・教材の選定に関する事項
- (4) その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直轄の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。

教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。会議の結果をカリキュラム検討会議に報告し、学科、コースごとに教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
玄田 宗七	滋賀県美容業生活衛生同業組合 理事長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	①
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
伊佐治 勇樹	株式会社ORESS 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
川畑 勉	資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部 西日本統括部 西日本1グループ 部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
岡澤 ひとみ	株式会社WE D D G E 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
三木 千恵子	株式会社ロイヤルホテル ブライダル 課長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
中垣 拓磨	有限会社ラ・リヴィエール 取締役マネージャー	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
村田 忠男	Y I C 京都ビューティ専門学校 校長		
田澤 初美	Y I C 京都ビューティ専門学校 教務課長		
澤 智春	Y I C 京都ビューティ専門学校 総合支援課長		
山根 大助	Y I C 京都ビューティ専門学校 内部監査・I R 戦略室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年5月24日 15:00～17:00

第2回 令和3年11月中旬～下旬 (予定)

**(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況**

業界の更なるIT化に伴い「基本IT技術」をそれまでの3単位から6単位増やし、ワード、エクセル、パワーポイントを基礎から応用までできるようにした。また、現場の広報的な役割を担うSNSについても苦手意識のない人材を求めるというアドバイスから「ソーシャルメディア」についても追加した。

**2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係**

**(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針**

ブライダル分野の主力である資格検定試験習得に必要な教育科目は全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、ブライダル分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。

後者の科目については、ブライダル分野の企業、メイク、ネイル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携し、ブライダル業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。

連携授業の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。

**(2)実習・演習等における企業等との連携内容**

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・企業等と協定書を締結し、連携授業としてプレゼンテーション・ディベート学、ブライダルコスチュームの授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。

・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

**(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。**

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダルコーディネーター技能検定Ⅰ	ブライダルコーディネーター技能検定の取得を目指します。ブライダルコーディネーターに必要な能力以下の能力を身に付けます。 ・お客様のニーズを汲み取る「コミュニケーション能力」。 ・お客様に合ったブライダルサービス・商品等を創造・企画する「プランニング能力」。 ・お客様にプランをわかりやすく提案・説明し、承諾を得る「プレゼンテーション能力」。 ・お客様の結婚式・披露宴を円滑に運営する「オペレーション能力」。	株式会社WEDDGE
マナープロトコール	私的な場面での礼儀を「マナー」や「エチケット」と呼ぶのに対して、主に国の間の公式儀礼を「プロトコール」と呼びます。 プロトコールは、主に国際的行事を企画、実施する主催者側が示す公のルールという面が強いのですが、正式な国際交流の基本原則ともなるものですから、ビジネスや個人間の交流を円滑に進める上でも、大いに参考になるものです。 プロトコールといっても、特別に堅苦しいものではなく、その基本は個人の場合と同様、相手に不快な思いをさせない、相手に迷惑をかけない、好感を持っていただく、というごくあたりまえのことなのです。これらのルールは、時代や国・民族によって細かい違いも出てきますが、最低限度かつ共通の約束ごとを頭に入れておくことはブライダル、ホテル業界に携わる者として大切な事です。	株式会社WEDDGE
ブライダルコスチュームⅠ	人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣裳。花嫁がその運命の1着に出会われるまでのサポートをするのがコスチュームアドバイザーやスタイリストです。本授業では、衣裳の歴史・ドレスコード・シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスコードなどの扱い方を習得します。洋装(ウェディングドレスやカロードレス)・アクセサリ・ベールなどの小物合わせ、和装についてトータルで学習し、ブライダルの現場で即戦力となれることを目指します。	株式会社バトー・アロマティーク
インターンシップⅠ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	アイネスヴィラノッツェ宝ヶ池、(有)TAKE STEP、(株)ザ・セーリング、(株)ロイヤルホテル、(株)日比谷花壇、東急ホテル、ワタベウェディング、レック

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教えるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはY I Cグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 ABC協会講師資格取得セミナー 」(連携企業等: 全米プライダルコンサルタント協会 )  
 期間: 令和3年3月15日(月) 対象: 教員  
 内容: ABC検定の出題傾向について

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 WITHコロナ 学生募集セミナー 」(連携企業等: 株式会社エデュース )  
 期間: 令和2年10月9日(金) 対象: 教員  
 内容: 2021年度学生募集後半戦に向けた戦略立案セミナー コロナ禍の中、これまでの学生募集との違い

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 ABC協会講師資格取得セミナー 」(連携企業等: 全米プライダルコンサルタント協会 )  
 期間: 令和3年8月予定 対象: 教員  
 内容: ABC検定の出題傾向について

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 ICT活用研修 」(連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会 )  
 期間: 令和3年8月 対象: 教員  
 内容: ICT(特に動画教材、マイクロラーニングを意識)を活用した先導的かつ効果的な教授法・学習法を修得・実践する事を目的とする

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(6)教育環境

1、ブライダル分野においてはセレモニープロデュースとブライダルプロデュースをそれぞれ2単位ずつにして演習でお客様対象で披露できる機会を増やしていきたい。1年間で2回、2年間で4回の挙式や披露宴、リアルウェディングをプランニングしていく。

2、色彩学について。今までは検定合格までが目標であったが、実際にプランナーになった場合、実際に学んだことを活かしてショーウィンドウやテーブルコーディネート、プランナーとしての挙式や披露宴会場の空間コーディネートの提案ができないといけない。それを実際に実践でやってみるように学校の衣装室のディスプレイやオープンキャンパスなどのディスプレイを実際に実践してそれを見ていただく機会を作って、基礎から実践できる流れを色彩学では作りたい。

3、IT対応する力で、ブライントタッチができるやオンラインでの営業、発信、企画、またはオンライン挙式などに関しても対応できるような授業を展開して学生を成長させていきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

Table with 4 columns: 名前, 所属, 任期, 種別. Rows include 玄田 宗七, 藤本 圭哉, 伊佐治 勇樹, 川畑 勉, 岡澤 ひとみ, 三木 千恵子, 中垣 拓磨, 寺澤 奈美.

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/

公表時期：令和3年6月25日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

Table with 2 columns: ガイドラインの項目, 学校が設定する項目. Rows include (1)学校の概要、目標及び計画, (2)各学科等の教育, (3)教職員, (4)キャリア教育・実践的職業教育, (5)様々な教育活動・教育環境, (6)学生の生活支援, (7)学生納付金・修学支援, (8)学校の財務, (9)学校評価, (10)国際連携の状況, (11)その他.

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ブライダル科) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ブライダルコーディネーター技能検定Ⅰ	B I A 検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。	1前	30	1	○			○		○	○	
2	○		ブライダルコーディネーター技能検定Ⅱ	B I A 検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。	1後	30	1	○			○		○	○	
3	○		全米ブライダルプランナー検定Ⅰ	主に全米ブライダルプランナー検定2級取得を目的とした対策授業。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われている日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。	1前	30	1	○			○		○		
4	○		全米ブライダルプランナー検定Ⅱ	主に全米ブライダルプランナー検定1級取得を目的とした対策授業。 前期に学習した内容を復習し、1級の範囲となるテキスト後半の対策及び、プランナーになった場合を想定した論述形式の問題への対策を行う。	1後	30	1	○			○		○		
5	○		ブライダル総論	現在の日本における結婚の定義、歴史や文化を知り、ブライダルとは何か?どんな意味・意義があるのか?を学ぶ。 また、プランナーとしてお客様と対応に当たり必要なブライダルの基礎知識や昨今のブライダル業界の傾向や地域性による違い等を学び、対応力を身につける。	2前	30	1	○		○	○			○	
6	○		現代ホテル理論	ホテルをビジネスモデルとして、運営・経営の仕組みや活動を学びます。講義では、実際のホテルの活動を中心にホテルの社会的役割や、ホテルビジネスを構成する経営の仕組みを、学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
7	○		ホテルビジネス実務	ホテルの各セッションごとの業務内容、用語などの基礎知識を習得し、ホテルでのお客様への具体的な対応例からホスピタリティの精神を学ぶ。	2後	30	1	○		○	○				
8	○		ブライダルコスチュームⅠ	人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣裳。花嫁がその運命の1着に出会われるまでのサポートするのがコスチュームアドバイザーやスタイリストです。本授業では、衣裳の歴史・ドレスコード・シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスコードなどの扱い方を習得します。洋装(ウェディングドレスやカラードレス)・アクセサリー・ベールなどの小物合わせ、和装についてトータルで学習し、ブライダルの現場で即戦力となれることを目指します。	1前	30	1	○		○	○	○	○	○	

9	○		ブライダルコスチュームⅡ	主にドレススタイリスト検定取得を目指した対策授業を行う。また、前期で習得した技術・接客を活かしてお客様のドレス選びに必要な事前準備、ヒアリング内容、小物類の取り扱いなど、より実践的な対応を学ぶ。	1後	30	1	○	○	○	○	○	○	
10	○		ブライダルプロデュースⅠ	学内でリアルウェディング（本物の結婚式）を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人となる事を目指す	1後	60	2		○	○	○	○	○	
11	○		ブライダルプロデュースⅡ	学内でリアルウェディング（本物の結婚式）を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人間になる	2後	60	2		○	○	○	○		
12	○		セレモニープロデュースⅠ	模擬挙式の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割を理解して、ブライダルプランナーになる意識を高める	1前	60	2		○	○	○	○		
13	○		セレモニープロデュースⅡ	模擬挙式の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割を理解して、ブライダルプランナーになる意識を高める	2前	60	2		○	○	○	○		
14	○		レストランサービス	レストランサービスに携わるプロフェッショナルとして身につけるべき基本事項を学び、お客様にレストランの料理だけではなく、ホスピタリティに感動して頂くための技能を見につける。	2前	30	1	△	○	○	○	○		
15	○		フラワーコーディネートⅠ	結婚式や披露宴を演出するために必要なカラーフラワーの知識を理解する。フラワーアレンジメントの基本の実践とテクニックを学び、表現を身に付ける。ドレスに合ったブーケ提案、披露宴イメージにあったテーブル装飾が提案できる。	1前	30	1		○	○	○	○	○	
16	○		フラワーコーディネートⅡ	結婚式や披露宴の、装花によるコーディネート学ぶ。1年時に学習したフラワーアレンジの技術や知識をベースに、模擬披露宴などを通してお客様のニーズに合わせたブーケや会場装飾の提案を学ぶ実践的授業。	2前	30	1		○	△	○	○	△	○
17	○		ブライダルプランニング演習	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知る。また実際に打ち合わせ内容について説明ができるようにロープレを実施する。	1前	30	1		○	△	○	○	△	
18	○		ブライダル広告研究	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーケティング手法を学びリアルウェディングのリーフを作成する事で集客につなげる。	2後	30	1		○	○	○	○	○	
19	○		ブライダル映像基礎	ブライダル業界における映像商品を理解し、また画像・映像の取り扱い方の知識を学ぶことが出来るようになる。その上で、時代にあわせたSNS発信についても運用マナーの理解を深め、SNSによる情報発信ができるようになる。	2前	30	1		○	○	○	○	○	

20	○		イラスト・デッサン	鉛筆の削り方・持ち方・描き方・構図・などのデッサンの基本を習得し、人の顔やスタイルなどスケッチ的なスタイル画へ発展させる。イラストやデザインなど表現・提案するための基礎を学ぶ。	2後	30	1				○	○				○		
21	○		インターンシップⅠ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	1前	60	2				○	○				○		
22	○		インターンシップⅡ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	1前	60	2				○	○				○		
23	○		色彩学Ⅰ	色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすりのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。	1後	30	1	○				○					○	
24	○		色彩学Ⅱ	ショーウィンドウやテーブルコーディネート、プランナーとしての挙式や披露宴会場の空間コーディネートの提案ができないといけない。それを実際に実践でやってみるよう学校に衣装室のディスプレイやオープンキャンパスなどのディスプレイを実際に実践してそれを見ていただく機会を作って、基礎から実践できる流れを色彩学では作りたい。	2前	30	1	○				○					○	
25	○		ブライダルヘアメイク	ブライダルメイクとヘアセットを学ぶ。通常のメイクとの違いを理解し、より立体的に、ドレスに合うメイクアップ方法を学習してゆく。	2後	30	1				○	○					○	
26	○		着付け・作法	浴衣の着付けから始め留袖の着付けで練習をしていく。帯結び（お太鼓・飾り結び）が数種できるように実践的な授業。和装の名称を覚える	2前	60	2				○	○					○	
27	○		メイクアップ基礎	JMA検定テキストに沿い、就職活動や現場に出た際にお客様に好印象を与えるセルフメイクのテクニックを習得する。技術の他、道具の扱い方の知識はもちろん、セルフメイクに限らず、相モデルに対してのメイクテクニックを習得する。	2前	60	2				○	○					○	
28	○		メイクセラピー	花嫁様の披露宴での心理的なストレスを和らげるメイクセラピーの技術を身につける。	2前	60	2	○				○			○			
29	○		ヘアアレンジ	就職活動や就職後に役立つ為、自身の夜会巻やシニヨン等を短時間で美しく仕上げられるようになる。また、新婦様のヘアスタイルについていくつかのパターンを習得しご提案可能となるよう、技術を習得する。ウィッグ使用の実技中心となる。	2前	30	1				○	○					○	
30	○		ビジネス基礎Ⅰ	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。秘書検定3級（11月受験）の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。	1前	30	1	○				○					○	○



31	○		ビジネス基礎 Ⅱ	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。秘書検定2級（1月受験）の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。	1 後	30	1	○					○				○	○	
32	○		硬筆書写Ⅰ	ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。また就職活動時に正しい字で履歴書が書けるようになる。硬筆書写検定3級合格を目指す。	1 前	30	1	○					○					○	
33	○		硬筆書写Ⅱ	ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。（11月3級受験 1月2級受験）	1 後	30	1	○					○					○	
34	○		サービス接遇 Ⅰ	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。ブライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネートなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。 就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級（6月受験）準1級（11月受験）2級合格（1月受験）を目標とする。	1 前	30	1	○					○					○	○
35	○		サービス接遇 Ⅱ	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。ブライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネートなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。 就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級（6月受験）、2級（1月受験）準1級（12月受験）を合格目標とする。	1 後	30	1	○					○					○	○
36	○		マナー プロトコール	美しい所作を身に付けると同時にお客様へのおもてなしを体現できる人間になる。立ち方・座り方・食事のマナーを知る。マナープロトコール検定を取得し、社会人になった際にマナーに沿った対応ができるようになる。	2 後	30	1	○					○					○	○
37	○		プレゼンテーション・ディベート学Ⅰ	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。	1 後	30	1	○					○					○	○
38	○		プレゼンテーション・ディベート学Ⅱ	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。	2 前	30	1	○					○					○	○
39	○		セールスプロモーション	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知り、ヒアリング・カウンセリング能力の向上を図る。 また、規約内容を理解し、職業観も身に付ける。	2 前	30	1	○					○					○	
40	○		ビジネス英語 基礎	接客を行う上で、英語における応対能力を身に付ける。英語応対能力検定におけるレベルBを目指す	2 前	30	1	○					○					○	

41	○		ビジネス英語 応用	ビジネス英語基礎で学んだ知識を応用し、接客時に英語応対が可能となることを目指す。英語応対能力検定B級C級取得。海外の参列者や新郎新婦に対しても英語で接客できるスキルを学ぶ。	2 後	30	1	○			○			○
42	○		ホスピタリ ティマインド コミュニケーション	今、我が国では広く社会全体で”心の教育”への注目度が高まっています。また、多くの企業や組織では、相手の立場に立って、心から相手のことを考えて行動する「ホスピタリティ」を、CS(顧客満足)の向上に役立てようとする取り組みがなされています。この授業では相手の立場に立ったコミュニケーションや気遣い、共創やそのための職場環境、顧客満足などを学びます。	2 後	30	1	○			○			○
43	○		ブライダル 企業研究	婚礼会場はどのような場所にあるのか、そこではどのような仕事があるのか、関連業種などについて調べる。インターンシップの事前学習も行う。ブライダル業界をプレ・当日、新生活部分に分けて様々な角度から検討し、理解を深める。	1 前	30	1	○			○			○
44	○		キャリア デザイン	各自の就職活動が円滑に進むよう、担当教員がアドバイスなどを適宜行う。エントリーをした企業への履歴書の記入や自己PRなどを具体的に指導する	1 後	30	1	○			○			○
45	○		基本IT技術 I	Word、PowerPoint他アプリを使用しながら伝わるデザインを模索し完成させ伝えることができるようになること。	1 前	60	2	○			○			○
46	○		基本IT技術 II	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの基礎知識を習得する	2 前	60	2	○			○			○
47	○		基本IT技術 III	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの基礎知識を習得する	2 前	60	2	○			○			○
48	○		ソーシャル メディア	現在、業界においてSNSの知識は必要不可欠となっている→今後の業界の動向からもメイクやエステの業界でもオンラインでのカウンセリング、接客、商品の紹介など次年度に関してはSNSの活用を学ぶソーシャルメディア概論を新たに導入予定。SNSでの集客はもちろん、マーケティングやツイッター、インスタグラム、LINE@などSNSの発信、リスクマネジメント力、マーケティング力の基礎知識を身に着ける。	2 後	30	1	○			○			○
49	○		論理的思考力 基礎	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力をつけ、数学的な考察を行える。小学校の算数程度の力だけで楽しみながらできる。一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは論理的な表現力を指し、情報の収集、整理・統合、思考そして発信に至るまで論理的であることが要求されるため、今日、社会人として求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。	2 後	30	1	○			○			○

50	○	ボランティア活動Ⅰ	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更（施設との調整などにより）が行われることもある。 ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することができる人材になる	1 後	30	1	○	○	○	○	○	○	○
51	○	ボランティア活動Ⅱ	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更（施設との調整などにより）が行われることもある。 ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することができる人材になる	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○	○
合計			85科目	2,550単位時間		(85単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

必修科目 60単位（1800時間）の履修  
履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。